

先輩農業者インタビュー



新規参入

園芸

富山県砺波市

猪原 建実 さん

(富山県出身)

就農のきっかけ

～すべてを自分の手で育てたい～

砺波市内のぶどう農園で、糖度の高い品種「クイーンニーナ」を食べ、その美味しさに感動したことが、就農のきっかけです。「このぶどうを、自分の手で育ててみたい」と思い、県の農林振興センターを訪れて相談したところ、地元のぶどう農家で土日に作業を手伝う機会をいただき、栽培に関わり始めました。

当時は金融機関で働いていましたが、「生産から販売まで、すべてに責任を持って関わりたい仕事がいい」という思いが次第に強くなりました。自営農業であれば、それが実現できると考えました。

また、美味しいぶどうを多くの方に届けたいという気持ちもあり、2022年に脱サラを決意し、ぶどう栽培をスタートしました。

ぶどう園について

～農家としての一歩～

ぶどうの苗木2本から始め、現在は実家の保有農地80aで15品種のぶどうを栽培しています。2025年8月には、自宅を改装した直売所を整備し、自園ぶどうの販売を開始しました。

ぶどう棚やハウスは、資材の調達から施工まで、すべて自分で手がけています。大変な作業も多いですが、自分の農園を一から作り上げていく楽しさを日々感じています。

栽培技術は、南砺市内の農園での実地経験や書籍による独学、さらに富山市のぶどう園での1年間の研修を通じて身に付けました。



～販売へのこだわり～

販売はすべて直売です。房での販売のほか、複数品種の粒を詰めたボトル商品、ぶどうジュースやジェラートなどの加工品も取り扱っています。

また、キッチンカーを導入し、直売所前での販売や各種イベントへの出店も行っています。お客様の声を直接聞けることが、ものづくりの大きな励みになっています。



これからの展望

～体験できる農園へ～

今後は、ぶどうの収穫体験ができる農園づくりを進めていきたいと考えています。栽培品種や生産量をさらに増やし、色や香り、甘みや酸味など、それぞれの好みに合わせて選べる体験を提供したいです。

将来は、家の周辺のほ場をすべてぶどう畑にし、たくさんの方に美味しいぶどうを楽しんでいただくことが目標です。収量を安定させ、生産したぶどうをすべて販売できる経営を目指しています。

ぶどう栽培を中心に、今後はイチジクや栗なども取り入れ、販売期間の拡大を図っていく予定です。現在は繁忙期のみパート雇用ですが、将来的には法人化し、通年雇用にも挑戦していきたいと考えています。

就農希望者へのメッセージ

～新規就農を考えている方へ

新規就農には、初期投資や運転資金など、計画的な資金準備が欠かせません。私自身、土地以外はすべて整える必要があり、金融機関からの融資を活用しました。

また、農業は決してリスクのない仕事ではありません。その中で、家族の理解と支えは大きな力になります。妻の「一度しかない人生、やりたいことに挑戦してみたら」という言葉が、就農への背中を押してくれました。

現在は、活用できる支援制度を最大限に利用しながら経営を行っています。支援への感謝を忘れず、地域に還元できる農業を目指して、これからも挑戦を続けていきます。

